

第20期 川口隆吉

今、筆者の前に30数年前の一葉の写真がある。同期の斉藤栄作が18期湯沢義郎氏のアルバムで見つけ、此の50周年記念部史用にわざわざマニラの筆者に届けて呉れた物である。斉藤栄作はいつ頃写したものが覚えていないと言う。珍しく20期生全員と18期生の主だったメンバーに加え極めて懐かしい方々が写っている。なかなか20期生全員の集合写真はなく、此の写真(P21)を基に20期生全員と思いでの方々に就き語って見たい。

写真の撮影時期は昭和38年(1963年)12月頃の物と推定される。その年の全国大会東京予選の準々決勝は千歳対目黒高校にて行われ千歳は惜敗し、目黒は同年の全国大会進出する。筆者の記憶では目黒が同年の大会覇者であった筈だが誤りでも好成績であった。此の写真は20期生が初めてOBとして後輩の21、22期生を相手にOB戦に臨んだ際の物である。20期生は此の一戦にて3年間の現役生活に終止符を打つ。

湯沢義郎氏は18期の主将を務められ、新入20期生にとって神様に近い存在であった。同時に文武両道の範を垂れられた。書道の達人である。此の写真(P21)の時機は慶応大学体育会ラグビー部の2年生の頃と思う。

18期の三国良樹氏は湯沢氏と同様慶応ラグビー部に在籍された。強烈なタックルは同氏の身上である。この方が後に清水建設の社長秘書をやられる事になるとは当時の誰もが想像するべくもない。

16期の伊東梓氏はこの当時青山学院大学ラグビー部のフロント・ローで活躍されて居た時機である。毎年の夏合宿のみならずあらゆる機会に母校を訪れ、後輩の

育成に腐心された。

20期生全員の写真が多分この一葉と思われる理由の大半は高木俊二にある。バスケットボール部に3年間在籍していた高木は何を思ったか突如シーズン開幕の3年の秋口にラグビー部に入部する。爾来、猛烈なラグビーに転向し、後に学習院大学のラグビー部の主将を務める。

小高邦彦当時には珍しい大型のCTBで相手の怯みを誘った。明治大学卒業後、製紙会社に勤務したが転職独立し今は荻窪南口の蕎麦屋松月庵の店主である。

20期のライン・アウトは4番ロックの佐々木昇利とスローワーであった加納が抜群のコンビネーションでボールの奪取率は極めて高かった。佐々木は1年生の頃こそ目立たなかったが、2年後半頃よりめきめき実力がついた。1年の日光夏合宿(1961年)の際グランドまでの約10キロのランニング中、大矢川の堤防の陰に身を潜めた為、全員は佐々木抜きでグランドに到着する。気がついた18期の平井秀和氏が搜索し連れ戻すわけだが、それ程此の日光合宿はつらい思い出として残る。

20期は比較的文武両道に秀でた人物を輩出したが、なかでも落合寿照はそのイメージが強い。1年浪人後の理科大学であるから大した事ではないのだが人間の持つイメージとは不思議なもので未だに秀才のイメージがある。卒業後オルガノに入社し環境関係の技術者として活躍中である。

スカパンこと松本克己は3年間スタンド・オフのポジションを変えず、華麗なプレーをこなす数少ないプレーヤーの一人であった。此の写真ではかなりまともな短パンを

着用して居るが、当時はわりに大きめの短パンが普通であった。彼は胴回りが小さく短パンの脇がヒラヒラとスカートのごとき様相を呈した。

松本恵光はインマツというあだ名である。本人とご家族の名誉の為に命名の由来は特に秘す。野球で云えば所謂軟投型投手であり長距離のロード・レースは滅法強かった。東京農工大に進学し、在学中は国公立リーグ戦で筆者はよく対戦した。後述の加納真人にも同様の思い出を持つが千歳の卒業生との対戦ほどやりにくいものはなかった。

加納真人は抜群のリーダーシップを以てフォワードのみならずチーム全員を能く掌握し牽引した。3年間の競技成績の恥ずかしくなくあることは彼に依る所が大きい。筆者同様2年の浪人の後東京水産大学に学び釧路の北海道漁業公社のアンカレッヂ駐在員として入社2・3年でアメリカに赴任する。以来、滞米期間はゆうに10余年に及ぶ。既にアメリカ人と云っても過言ではあるまい。

20期の内、美男子として河野治隆を挙げて反対する人は居ないと思う。本人は照れ腐ろうが眉目秀麗の偉丈夫であった。フロントローとしてはおとなしい性格であったが、混乱戦での突破力は流石で中央大学の同好会くるみの中核としてチームを引っ張り活躍する。後に、松下電工の住宅機器の販売で北海道に行ったので筆者は20年程会って居ない。連絡が欲しいものである。

10期の渡辺真介氏は我が20期生3年間のラグビー生活のほぼ全ての記憶に登場する先輩である。強烈な個性と鋭い舌鋒で、現役の指導に没頭された。殊に20期最後の富士見の夏合宿での猛練習は忘れ難い。富

士見合宿は20期の総決算で同氏は練りに練って苛酷なメニューを構築し実行した。当時の高校生のレベルを超えた内容であったが、今はそれも30年前の懐かしき思い出しかない。

18期の高梨敬三氏は明治大学八幡山グラウンドの近くに住んでいた。明治の練習、公式戦、練習試合など当時から八幡山グラウンドはラグビー関係のオケージョンの多い所であった。冬の寒い午後よく同氏のお宅にお邪魔し、お茶を御馳走になりながらその日見た明治の練習の物凄さ等ラグビー談義に花を咲かせた。在学中は名フッカーで敵ボールをよく取った。成蹊大学より日立造船に入社する。筆者とは職場が接近しているため比較のお会いできる機会の多い数少ない千歳OBの一人である。現在はとても節制され此の写真でのイメージからほど遠い。

18期鈴木氏は千歳野球部の主将でしたが、右翼外野手として活躍されていた。20期が1年生の頃、当時の2年生であったラグビー部の19期が大卒全員退部するという事件が勃発した。理由は受験であった。困った18期は野球武の鈴木さんに助けを求め、鈴木さんはこれを受け、助っ人として数多くの公式戦に参加されたものである。同氏はその風貌に似ず写真が趣味であった。筆者に誤りがなければ此の写真も同氏の手によるものである。筆者のアルバムには鈴木さんのカメラで撮影され、鈴木さんの暗室で現像焼き付けされた写真が多い。

蓑原は超高校クラスの大卒新人として新入1年の頃から正式メンバーとなり他の20期を尻目に公式戦等に登場していた。高校卒業とともに予てよりの海外渡航の希望を実行し、文字通り横浜から客船で渡米した。

彼の渡航前夜、20期は全員横浜に集合し盛大に壮行の宴を張った。夜を徹し飲み明かし、山下埠頭の岸壁で朝を迎えた。飲み代等持っていよう筈も無く、全て蓑原の饅別から支払われた記憶がある。後年、筆者は南カリフォルニアのアーヴェインに同氏を訪問したことがある。当時、彼は辻寅のアシックス・タイガーの現地マネジャーに就任していた。その晩、彼の家族と外食し寿司を御馳走になった思い出がある。どうも蓑原には奢られっぱなしだ。

我が20期で唯一の独身は斉藤栄作である。斉藤栄作の家は四ツ谷左門町にありよく皆で遊びにいった。斉藤栄作の身体の固さは異常で練習前の柔軟体操は苦手だった。走る時も突っ張りながら走る感じだったがスピードは一流だった。その後東海大学に進みやはりラグビー部に在籍した。筆者は一度だけ東海大学との対戦を経験したが、栄作が敵のウイングで登場し試合中どうしても栄作をタックルせざるを得ない時があった。残念ながら其の際、栄作の身体の固さを思い出し怯んでしまった。結果は栄作によるトライである。

11期の堤教諭は我が20期が2年生の頃(1962年)母校の千歳に赴任されてこられた。順天堂大学を卒業したての新進気鋭の体育教師で、まさに公私共々お世話になった。しばしば祖師谷の広大な堤邸にお邪魔し酒盛りの宴を催していただく等昨今の師弟関係からは想像できないお付き合いをさせて頂いた。

かく言う筆者は無力量ら20期の主将を務めさせて頂いた。東京外国語大学卒業後、丸紅に入社した。2年浪人1年留年だから人様より3年遅れて実社会に入った

いた。東京外国語大学卒業後、丸紅に入社した。2年浪人1年留年だから人様より3年遅れて実社会に入ったことになる。入社後もラグビーを続け、ラグビーの練習から解放されたのはマニラに海外駐在に行った30歳の時である。20期の他の連中より多少長めにラグビーをやってしまったせいなのだろうか、その後20年間続けているゴルフの腕前は一向に進歩して居ない。月日の経つのは早いもので早生まれ、遅生まれの違いは有ろうが当時若者であった我々は皆52歳である。

（ 第 20 期 同期生からのことば ）

千歳で過ごした3年間は、今振り返っても充実した素晴らしいものでした。その後も大学で4年間、更には草ラグビーで37才位までプレイできたのも、千歳時代に培われた財産の賜物と思っています。現在は、小学生サッカーのコーチをしています。時として30数年前の自分にタイムスリップして女房から怒られています。 松本恵光

○昭和38年1月～昭和38年12月までの戦歴

日付	大会名	対戦高	グラウンド	スコア
S.38. 1.12.	練習試合	日大二高	日大二高	21-0
1.20.	新人戦	園芸高校	園芸高校	22-0
1.27.	〃	麻布高校	〃	16-3
2. 3.	〃	小山台高校	〃	6-0
2. 9.	練習試合	松原高校	松原高校	18-8
2.17.	〃	荏原高校	〃	3-3
2.17.	〃	〃	〃	6-9
3.27.	〃	警視庁	明大八幡山	――
3.28.	〃	〃	〃	――
4. 1.	7人制大会	――	〃	――
4.12.	練習試合	保善高校	――	5-24
4.21.	関東大会予選	成蹊高校	成蹊高校	15-9
4.28.	〃	松原高校	〃	24-6
5. 5.	〃	専修大付属京王高	〃	0-11
5.12.	関東大会	高崎高校	平塚農高	14-0
5.24.	練習試合	早実高	――	17-3
6. 1.	〃	日比谷高校	――	44-0
6. 5.	〃	小石川高校	――	28-3
7. 6.	〃	荏原高校	明大八幡山	3-21
8.25.	〃	千歳高OB	千歳高校	――
9. 1.	国体予選	日大二高	日大二高	13-14
9. 5.	練習試合	久我山高	――	41-3
9. 7.	〃	電通開発(株)	――	14-11
9. 8.	〃	千歳高OB	明大八幡山	――
9.12.	〃	小石川高	――	――
9.28.	〃	早実高	――	8-6
10. 3.	紅白戦	――	――	――
10. 8.	〃	――	――	――
10. 9.	〃	――	――	――
10.12.	練習試合	慶応志木高	――	16-6
10.23.	〃	園芸高校	――	31-5
10.27.	紅白戦/OB戦	千歳高OB	――	――
11. 3.	全国大会予選	桜美林高校	城北高校	82-0
11.10.	〃	早実高	園芸高校	23-5
11.17.	練習試合	大東文化一高	大東文化一高	55-0
11.24.	全国大会予選	目黒高校	成蹊高校	8-29(?)
12. 8.	引退観戦試合	――	――	――

●この年は、20期生が数多く、対外試合も多く実施されていますが、これも一重に18期生の熱心な指導が、更にその上のOB諸兄をも巻き込んで良き時代を形成していたものと思います。

○メンバー一覧

清水康弘
落合寿昭
河野治隆
佐々木昇利
冀原克洋
加納真人
小川清正
松本恵光

FW

北田一
北村五男
齊藤栄作
小高邦彦
川口隆吉
山岸芳夫
松本克己

HB

TB

FB